

観光バス・タクシー会社の経営者の皆様へ

C-Kan プロジェクト本部 あすぶろ実行委員会

コロナ禍の中、お客様が自分と家族の命と健康を守り、安心して交通機関を利用できるようにするためのご提案です。

はじめに)

コロナ対応として、換気の徹底が求められていることは、皆様ご承知のことと思います。お客様の認識も急速に深まりつつあるのではないのでしょうか。

いかに換気を徹底していても、そのことがきちんと伝わらないとお客様に安心してもらえません。

安心いただかなければ、乗車してもらえませんし、ツアーに参加してもらえません。

換気の徹底の事実を伝えるには、現在の室内の CO2 濃度が安全基準の 1000PPM 以下であることを、目に見える形で確認できるようにすることが必要です。

車内の CO2 濃度の生データを、お客様がスマホで確認できれば、安心いただけるのではないのでしょうか。

C-Kan プロジェクトはこのことを可能にするシステムを用意しています。

1000PPM というのは厳しい数字です。狭い車内で空調を自動換気の内部循環モードにしていると数分で 1000PPM を超えてしまいます。外気導入モード固定にしておくことは必須です。

しかしそれだけでは不十分です。乗車人数、継続走行時間によっては強制換気が必要となるケースもあります。しかし、強制換気は運転手の操作が必要となります。運転手も運転席に固定したスマホなどで、CO2 濃度の数値を常時確認できるようにしなければならないのです。

タクシーの場合は外気導入モードに固定していれば CO2 濃度はほぼ 1000PPM 以下です。運転手とお客の双方がマスクをしていれば、リスクは少ないと言えますが、座席の前に、お客向けの換気対策についての案内メッセージを用意しておくべきかと思われれます。

観光バスでは

1 のケース

バスの中で CO2 濃度測定を行い、座席による違いを検証し、違いが少ない場合には、少なくとも運転手とバスガイド、添乗員、前部座席のお客の見える範囲に CO2 濃度測定器を置いて、いつでも数値をチェックできるようにします。画面は見やすい方がいいです。

2 のケース

- ① 車内の空気によどみによって CO2 濃度が高くなる場所 (CO2 換気アドバイザーが判断します) のコンセントに CO2 濃度測定器を接続。
- ② 測定器の生データ (5分おき) をクラウド経由で運転手と観光バス会社とバスガイドと添乗員とお客様のスマホで見られるようにします。座席に置かれた案内の QR コードからアクセスでき、換気と CO2 濃度についても案内します。

こうした姿勢が旅行客への信頼感を高め、ツアー申込者の増加にも寄与することが期待できます。

C-Kan プロジェクトでは各座席設置用のご案内も提供します。2のケースについてのバス1台あたりの導入費と年間使用料は現在調整中です。

C-Kan プロジェクト HP の [お問合せフォーム](#) からご相談いただければ、対応しますので、お気軽にご相談ください。

※旅行代理店の場合、添乗員がCO₂濃度測定器を持参し、1000PPMを超える場合には、観光バス、宿泊施設、レストラン等に換気を促すようにすることが望まれます。海外旅行の場合も同様の配慮が望まれます。